

西紀っ子だより



〒669-2716

兵庫県丹波篠山市乗竹650

TEL：079-593-0024

FAX：079-593-0249

Email：el-nishiki@school.sasayama.jp



未来を切り拓き、夢をかなえる力の育成～郷土を愛しこころ豊かにたくましく～

(文責：藤原典英)

千年前の職人に学ぶ～学校をつくる，地域をつくるということ～

国語の教科書の話になります。光村図書出版という会社から出ている教科書に、「千年の釘にいとむ」という教材がありました※1※2。簡単に説明すると、和釘の鍛造では第一人者であるという白鷹幸伯（しらかかゆきのり）氏の釘づくりにかける思いや努力について言及しているお話です。和釘というのは、形状や材料の工夫によって、千年もの間朽ちることがないと言われています。子どもと一緒に学ぶにあたって、実際に見てみたいと思い、探しました。すると、当時勤務していた豊岡市の豊岡市立歴史博物館（但馬国府・国分寺館）に出土品があることが分かり、見せてもらうことが出来ました（現在は常設展示されています）。

白鷹さんは、薬師寺の再建をきっかけに、和釘づくりにチャレンジします。千年経ってもびくともしない建物をつくるには、釘も千年保つものをつくらなければならない、と決意します。現代の釘と古代の釘を比較し、大昔の職人の知恵と工夫に感嘆します。

この授業をきっかけに、薬師寺再建の立役者である西岡常一氏のことにも調べ始めました。宮大工である西岡さんもまた、千年先を見据えてものづくりを行う人でした。屋根を支える隅木を設計よりも5cm高く組んだ理由を聞かれた時に、次の様に言っています。

『歳月の重みで屋根の反りは落ちていく。千年後に、設計通りになる』

素材の持つ特性を理解し、長い年月の中での変化を見据え、次の世代に引き継ぐ時に完成する様に考えているのだと思いました。今が良ければ、ではなく、この建物を見上げるであろう何十年先、何百年先、千年先の人々のことに思いを馳せて、つくる。

学校も、地域も、この様な視点が必要なのでは、と最近考えています。千年先、というと大袈裟かもしれませんが、少なくとも次の子育て世代が通わせたい学校づくり、次の子育て世代が住みたいと思う地域づくりを柱に、学校と地域が連携する必要があります。そのためには「今」の私たちに何が出来るのか、それを地域の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

学校づくりも、地域づくりも、基本は「地方自治」です。自分たちの学校だから、自分たちの村だから、自分たちで治める。村の皆の力で、治める。自分たちで治めないといけないから、主体者となって、建設的な意見を出し合い、違いを認め合い、互いの個性を組み合わせていく。その様にして、次の世代へ引き継いでいける学校や地域が育つのだと考えます。

※1 丹波篠山市は東京書籍という会社の教科書です
※2 現在は教科書に掲載されていません。

○学びの総決算～六年生の卒業旅行から考える○

2月12日（木）、6年生が小学校生活最後の校外学習に出かけました。これまでの自分たちの学びの総決算となる、いわば卒業旅行です。行き先は、「カップヌードルミュージアム」と「大阪市立科学館」。全て自分たちで行程や時程を組み、路線バスと電車を利用して移動しました（市のバスをチャーターして移動したり、旅行者に手配を頼んで連れてってもらったり、ではないところに6年生の本気度を感じました）。自ら電車の切符を買ったり、道中ではお互いに声をかけあって目的地を探したり、「自分ごと」の学習として動いている姿に感動しました。こういった姿を表現出来る様になったのも、6年担任をはじめ、これまでかかわった教員、保護者の皆様、地域の皆様のおかげだと考えます。卒業まで後少し。最後まで「自分ごと」の学校生活を走り切ってくれと信じています。



○表現することは生きている証～N-1グランプリでいっぱい表現する西紀っ子～○

1月に、児童会主催の「N-1グランプリ」が開催されました。これまでにはなかったイベントです。令和7年度後期児童会が自分たちでアイデアを練りあげ、実施までこぎつけました。

全校生の前に出てきて、パフォーマンスをする。書いてみるとこれだけなのですが、そのハードルは想像以上に高いです。人前で何かパフォーマンスをしようとする、とすれば、「恥ずかしい」とか、「失敗したらどうしよう」といった思いが頭をもたげてきます。人前で何かをするというのは、なかなか勇気のいることなのです。だからこそ、今回エントリーして、パフォーマンスした西紀っ子の、やり切った後の成長は大きいです。自分という殻を破り、新たな自分に出会えたのですから。

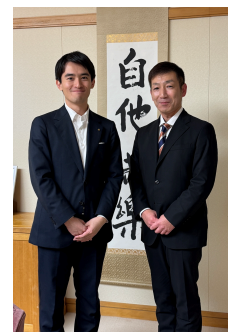
しかし一方で、表現というのは一人では出来ません。その表現を届けたい人・受け取ってくれる人という、「かかわってくれる人」や「支えてくれる人」の存在が不可欠です。このN-1も、前に立ってパフォーマンスを届けたい、そして受け取って応援したい、といった全校生の関係があって成功したのです（そういった場をつくるための児童会役員のサポートがあったからこそ、ですが）。そのように、「かかわる力」や「ささえる力」の基盤の上に「あらわす力」があると考えれば、表現することは、生きることに全てにつながるのだな、と考えられます。

これからも子どもたちの「表現したい」という思いを引き出し、生きていることそのものの素晴らしさを実感して欲しいと考えています。



○学校づくりは町づくり～スクールコミュニティを目指して～○

先日、芦屋市の高島峻輔（りょうすけ）市長と面談する機会がありました（高島市長は、2023年の市長選で当選した当時、全国で最年少の市長でした）。教育に力を入れておられ、中央教育審議会教育課程規格特別部会という、今後の日本の教育の方向性を考える委員会のメンバーでもあります。また、去年は米タイム誌の「次世代の100人」にも選ばれました。面談も教育に関する話のみで、子どもたちへの熱い思いを共有することが出来たのは本当に嬉しいことでした。面談の主な柱は、「子どもたちの主体的な学びをどの様につくっていくか」「対話を通して最適解を求める文化をどの様につくっていくか」「教職員の主体性をどの様に引き出して育成していくか」「学校を拠点とした地域づくりをどの様に行っていくか」といった点でした。対話を通して、改めて、学校は地域を変革する「エンジン」になる、と確信するに至りました。学校が地域をつくり、地域が学校をつくる、そういった往還が出来る学校・地域にしていきたいと考えています。学校を地域のHUB（中心）にするスクールコミュニティづくりを通して、学校にかかわる全ての人々が幸せになる社会を皆さんと共に築いていきたいです。



△3月の行事予定▽※学校のホームページからも行事予定が確認出来ます。変更分もそちらから確認出来ます。

2日（月）	人権朝会	17日（火）	給食最終日 大掃除 全校終会14:45
5日（木）	下校見守り	18日（水）	全校終会11:35
6日（金）	6年生を送る会	19日（木）	3・4・5年生卒業式会場準備 全校終会11:35
9日（月）	全校朝会 JA引き落とし日	20日（金）	祝日・春分の日
11日（水）	朝のお話会	23日（月）	卒業証書授与式
16日（月）	ふるさと朝会	24日（火）	令和7年度修了式 全校終会11:35



◎子どもたちの安全を見守っていただき有難うございます◎

早いもので、もう3月を迎えます。この一年、子どもたちが元気に安全に登下校出来たのも、地域の皆様のおかげだと心より感謝しております。残り一ヶ月、学校に居る時も、そうでない時も、子どもたちが安全に安心して過ごせる環境を、学校と地域でつくっていきたくて考えております。これからも、子どもたちの安全を共に見守っていきましょう。宜しくお願い致します。

◎ご意見・感想をお聞かせ下さい◎

こちらの2次元コードからご意見・感想をお聞かせ下さい。

